資料番号２－２（参考資料）

平成 30 年度・令和元年度　地域ケア会議区レベル会議から区への提案
テーマ『認知症高齢者への支援』

課題１　～　多世代に認知症を正しく理解してもらおう　～

地域で認知症サポーター養成講座を受講できる機会を増やしていこう
子育て世代、子ども世代に認知症を正しく理解してもらおう

課題２　～　認知症の方や家族の集いの場を増やそう　～

地域の力で、本人や家族がいつでも気軽に集まれる場所をつくり
その場所を多くの人に知ってもらおう

提　　案（平成 30 年度）

■　認知症の方が「身近にいてもあたりまえ」「自然にいられる」地域をつくろう　■
■　認知症サポーター養成講座について、各年齢層に応じた伝え方を工夫しよう　■

１　区民は、「友人・知人・隣人」の認知症を我が事と受け止め、自分たちがその支援等においてできることを考え、行動する。

２　地域は、認知症の人やその家族を自然に受け入れられるような雰囲気づくりに努め、集まれる場をつくる。

３　区や社会福祉協議会は、認知症について具体的に“話せる・伝えられる人”、地域づくりの柱となる人を養成する。

課題３　～　早期発見と関係機関へのつなぎ　～

相談内容の共有のための共通書式の作成・活用

提　　案（令和元年度）

１　多機関が協働し本人を支援するためのツールとして、多機関連絡用の「シート」の開発・活用法について検討を進める
その際、庁内外との連携による取組を推進する

２　シートの検討にあたっては、情報セキュリティ、個人情報の保護・取扱いについて考慮しながら進める

３　多数の支援機関が関与するとともに支援期間が長期化することも想定されるため、経過を追える仕組みづくりもあわせて検討する

大田区における地域課題の解決にむけた基本的姿勢

１　地域の各主体や事業者は、少しでもできることから自主的に取組む。
２　そのため区、社会福祉協議会は、自らの役割を果たすほか、
地域の各主体や事業者に対しても働きかけを行うなど、環境づくりに努める。